



誹
名
方
角
集
一
冊

中村俊定文庫
文庫 18
515
2



氣賀
文庫

名所方角集

坤之卷

目錄

大和 初丁

河内 十五

攝津 十七

和泉 三十二

紀伊 三十三

淡路 三十九

阿波 四十

土佐 四十一

伊豫 四十二

讚岐 四十三

豊前 四十四

豊後 四十五

筑前 四十六

筑後 四十八

肥前 四十九

因幡	播磨	備後	長門	薩摩	肥後
卒七	六十三	卒一	五十八	五十六	五十二
石見	美作	備中	周防	對馬	日向
六十八	六十六	六十二	五十九	五十六	五十三
出雲	伯耆	備前	安藝	壹岐	大隅
六十八	六十七	六十二	六十	五十七	五十五

上野	美濃	越後	加賀	隱岐	但馬
九十九	八十四	八十	七十七	七十三	七十
下野	信濃	越中	能登	若狹	丹後
百一	八十九	八十三	七十九	七十四	七十一
出羽	甲斐	飛彈	佐渡	越前	丹波
百六	九十七	八十四	八十	七十五	七十二

各所勿集下目錄

木の根をせせりや小麻乃角の際
眼小きゆらみらきししあ良の麻
河あきよしとふ良いまな家も数風流
葉めておき育くくくくくくく麻
仁翁 仙里 赤外

木辻 鳴河

つきの後くをゆた回ろ麻が
鹿の志又たをく鶴待も鳴河也
竹角 玉圃

光明を皇后市場至の初 河岡寺療ふ
陽おろを療石も人ととる 佐保

猿沢の池 宋世宮 衣ヶ柳

名月や池のめぐりて終る
若葉や新れうけり春神歌
水着紫被着て朱し人の影
猿沢の月ふとと出す柳うね
新むしは柳の池乃む原か
芭蕉 宗風 園女 蒼狐 津家

十三之卷

菩提院 思親

秋と千之経不情をり 岩箱

春日社。春日跡

山。里。系。森。若菜。麻。

春日跡や若菜の穂麻の子 栗吹

四心のまゝくおゑあふまゝ一竹の

今我目秋の扱浩とまゝ山 甘角

貝山小松千乃打の秋のこ 岩箱

ま根まらそへ八細一麻乃声 希因

守りし麻も春日此神のまき 春郊

三心立山

若草山正

見さふし三心立山乃月系 之家

谷月や三心立山 沽洲

降別表て月もろあはらま 素外

羽笥山

杉風や三心立山の鐘乃ぬし山 若磨

大佛

東大寺

神陀紫之佛ふなりしれり涼之 昌意
大仏の市肌のまねや日の白り
月影も山よりと雲し東大寺
花の香や木くも仏の鼻は下 素友

南大門

二五 筑紫あまの山ありし
無福寺

南大門立ちあがりしはくちの聲 正秀
まゝの多やと申すつれぬの目 貞角

管れり尾さるしや梅乃雪 奈和

日向山

俗ニ八幡山也

日向をやは写祢りぬりく唐姫 政之

飛大跡

飛大跡の鏡

山燒し流りお火のまこれば 左藤

え魚寺

を結ぶ之因りるは塔の怖が 牛吞

初瀬山 川。長谷寺 林泉とて階の廻廊あり

春のおやみ詠人赤い事の隅 芭蕉
うかれゆる人つや初瀬の山裾
いまおふ卯のまきさくたのせ山 去来
松尾の公家の子達を初瀬山 尺牘
あつらひの画轴 ひとり初瀬の繪巻 希因
初瀬の繪よふおと ひとり詠

伸上る杖をさきしをのせ山 菖菰
鶴ハ注神のまきさく初瀬おろし 龜仙
はゆるおち辱ふ初瀬のほろけ 不祥
山にらりし一人行つ初瀬のたて 素外

愛之の梅 義五世のちよま

梅の香やさきかたりしも松ぞん 園女

。依りて後。三悔り梅。三悔川

いづの神ありてまら市神作 季吹
弓よみ流るるありけり枝のまき 法徳

。在原寺

布取里にて

傍独の舞ふ向ふ唐の車 其南

絶有常宅地

別所村畑中ニ井を

里れ子の舞の涼し 筒井筒 乙中
筒井筒行ふとらな昔の花 希因

飛とるると月井筒の松をを 換ル
昔御と我肩をこめぬかき 止

法隆寺

南無仏の太子日舍利

此袴のまのれなるし 紅の花 千那
夏夏汗梅ふとくまの胡蝶は 涼佛

。辰乃市

辰の日の市ありて

娘の音も日いそるるは辰の市 津波

高松や法螺舟も積るるをいふ 宿松

○二上山

大坂山山名とこも 越中二回名と

ニよわ樺かけし葎のきぬ 電燈

○畝火山

俗ニ指明寺と云

耕ちぬふらぬれちる紅葉 九室

○厚梨山

他ニくらなりし 俗ニ天祐山と云

見積りも積りある山や秋の菊 洞和
唐のきぬや早き山乃推又た 存我

○海池

深もちやみあれ池のあけ子 百景

○天香具山

あゝあゝし卯の花の流るる女 園女

○倉多徳山 丹波ニ同名あり

千やと利つしはし 山れ雲の事 云笑

多武の峰

カマノヒヤマ 後山 紅葉洞 大藏官社 十とまの塔

帳付ふしとるし 多武の峰 貞徳

増賀ふしとる

日本書紀蓋寺に云

此塚ハ福の 苔のつねはし 希固

細涼 秋涼也

やとをらとふ休ふ涼外 芭蕉

○龍門の院

仙室の北に酒籠とて在り云

龍つらとむや上戸のちまをよせし 芭蕉
酒のふゆ〜ん〜る院の花

○十津川

岩波と十津川をる小館ふ 閑菴

夕のひよちりまのよるあつり
 夢のひよちりまのよるあつり
 母のちのよるあつり
 吉路やも只のちのよるあつり
 ぬるまのちのよるあつり
 心ゆくはちのよるあつり
 寄せとも只のちのよるあつり
 は癖のちのよるあつり
 こころのちのよるあつり

吉路 吉路
尾法 尾法
京 京
竹翁 竹翁
寄 寄
癖 癖
中 中
麻父 麻父

夕のひよちりまのよるあつり
 夢のひよちりまのよるあつり
 母のちのよるあつり
 吉路やも只のちのよるあつり
 ぬるまのちのよるあつり
 心ゆくはちのよるあつり
 寄せとも只のちのよるあつり
 は癖のちのよるあつり
 こころのちのよるあつり

京 京
秋 秋
家 家
尾 尾
京 京
山 山
郊 郊

雲の袖も折るよりの吉野山 葉人
 斧の柄も折るよりの吉野山 月
 花人も香人もあはれけりさか 吐風
 さる哉のさのよりの吉野山 不祥
 みよりの人も見人も折る花は者 津家
 みのりの人も見人も折る花は 笠衣
 白雲も折るよりの吉野山 夢を
 空の又も折る花はよりの吉野山 會處
 花の眼も折るよりの吉野山 把業

抱いてはあはれけりよりの山 露水
 朧かいたまの葉も折るよりの山 玉圍
 春の風も折るよりの山 素外

○吉野川 流

吉野川よりの山 山邊 宗鑑
 よりの川も折る花の鏡の天下 別常
 吉野川よりの山 春郊
 吉野川よりの山 明苑

眼のおとあまハ申くこ吉原川 乙維

吉水院 舟まかありしと打とこしの一とま

あよりしあしと文首白とろろ 超波
岩り釘たかやと内のは乃奥 甲長

義五半 回糸

初をあるしと義五半の下の下 存義
あつたよやとらと

碇おてとらよゆせよ坊の妻 芭蕉

瀧ぬけの塔 回糸

こよりゆと瀧ぬけて二木初原 乙外

西行甚電 回糸 かしりの清水

ちるらふとくく公又よ海世まのち 芭蕉
まきゆれ木下ふ借ふし 乙外
ちるらふとくく一屋の清水 乙外
盤谷

きふりてあるめく父水またり 涼帝
後ふ能むハ濁りなる夏ころ也 平妙

○神振山

晴野やまより神あふ山ひり 柳居

西河院 ニシカウノ

うき川よき大院と云 芭蕉
ほろくく山吹ちるを院のき 平妙
碓よとの院とありや交衣

○茶茶橋川

春の首や河にいとこの茶茶橋川 也磨
まのくやと流お茶茶橋の川板 園女

○大滝

級行者也

大いづのふもまの先達や湖邊 京 可全
大い事やゆりゆり舞は花の果 芳良

園上作

月影入一山くくくく作が精正堂

○河内

金剛山

金剛砂 大和河内古寺の遺るこ

千早岨後みそ

更り乃る金剛山も秋の風 舎羅

親心寺

多雨粉 楠石塔

梅乃禮ぬくく一牡丹か 其角

道明寺

比丘尼寺 楠木榎樹

糲みも鶴や情す心冬日歌 系芳

院地了也院

志紀郡の院に傍りかくる

あけをしの地縁りゆる木縁元 尺野

高安此里

夕々れや河内乃妹う孫也宛 幸外

生駒山

大和河内へくをく山

生駒山坐系ふ越く耳くをを云 京 宗諱

ひくくあり雪方や班毛牛生駒山 山邊 長久

風の口乃ナシくきやい依尔生駒山 長原 尚昌

伊駒山ニニ重たうくしををく中流 波草 与利

生海より雨雪くくうぬ伊駒山 其角

大の川

大和筑紫同名也 水少き河川也て白く長し

とそ夕も河内通じを大の川 城あり 吉野

名月流桂や流木あん乃川 大坂 自業

交野

美ゆり所野里系後

三流をの川くく一勢く虫撰 米仲

ちちるやあめ舟ハく此向り物 其業

新編御集

依田天満宮

昔葉の白もやをめくはと向軒 季あ吟

牧方

考案ありき草うらまんの平房吟を今

ひよひハ著の乃く歌の當が 估徳

○撰津

大坂橋多

涼 さらば涼く歌て橋より 来山
 涼 心ももつるは涼し 貞佐
 牛 渡り心車ハ使へす 橋多
 夕 すすみ月も浪をハ橋乃 叔
 世 花よとくきわく 橋の 叔 涼袋
 寄 のりもも保め 橋の 叔 涼袋
 川 筋や影も 橋の 叔 涼袋
 遠 遠くかき橋も 橋の 叔 涼袋

名所句集下

の六

新所集

信光の傳は諸家の系やめしむ 津家
八幡や四宗子法喜の法商人 素外

阿部池地 信光の傳のよきせよあこと又
大和国佐の池あり

源氏の傳や佛の傳とよむ堂 有依

四ツ橋

四ツ橋の角三々をきみの月 乙列
源氏も四ツ橋の四ツ三々をき 素山

新所 よの娘 砂場 草子

ほのくと身しる山灰方や心の歌 地回
川らぬ糸の花や梅の香房好遊 卜人
松もつと通達揚金の能ある者 素外

本新寺 水津村浄坊 西へ 南新所浄坊あり

海常戸おハツ新およむ半の糸あり 史邦

新所集

新編
名所
拾遺

社

。たう川の宮 今言傳と云 湯豆之齋

言を室おのりてつげハ踊ガ 貞佐

娘をよや先を師のまうまう 雲音

眺望

潮照る生る跡武彦山ニすむ 法々

玉造福壽社

まうまうを念々福壽乃造る場 素外

北濱 枝葉ま一の茶市ニ

水濱うし川や朔風秋あ場 素外

天満天神社

神木本は庭をよや今も梅のゆ 大坂 重寛

誰人乃公侍くしや画るを 花笠

須波津や神のまうく梅瓜 素外

梅井此宿

楠父子別れの傍に山子の碑と

さう井の里山坊名あり

名所
拾遺

社

持子よりかゝる圓や禪のまは 芭蕉

能因塚

古き村

公川の舟たたくまきとあ 君香

○芥川

日今昔 齋かき入の芥川 三好

○玉江

我前小田名

世々々々玉江のまはれは 惟然
る等の定宿とき玉江の那 清

○玉川

里 卯の花

卯のまや雪ふかくれぬ川が底ふ 栗克
玉川も玉 鼓まらぬよは花卯木 仙風

○江口

江口の石は像とあり

やれはは流身いもる一舟か 梅翁

新編 和名抄

丹波

白きふしなむわに白の舟乃空丹波宗貞
川亦似とめてはにちみ踊か 書山
情心うや判國よるるのやうそ 幸外

○長柄の物 かきしは柄ハ折てなまきり古く
あり

かろし柄も似ては物の有る水大坂 保友
涼 土紙乃うろく毛柄は樹は系 紙也

○部 海ふらる清合多し

浦をみしよりや部波の部公 自堂
河をみしよるもた部波村浦の月 紹性
枯草戸に部波入江のさくら波 鬼費
苔もよ今紙まき通し巨魁より 沾職
始やみしる浪の花の足月傍 宿舟

○部波の梅 部波の里にそ

部波津ふしおの雨や梅のお 梅翁
雪とらんく又世を年を村の梅 亀文

名所句集下

〇三

新撰集

貞固

○伊津濱 松系

月ハ年ハ川ハる自カニラハの濱系 貞固

上巳

月ヤ自シミ川ノ濱也ノ以平系 康吉

初日ヤ似系報シミノ濱 市仙

○因心表の詩

芦田存ヤ因心表ノカシ福ホ立 五穂

○塙江 格・歌音 个塙江ノ云云・ありは津村ノ事

うらと塙江ノ福レ海世ハ古 山夕

四天五寺。那摩寺・桑井の石 石の歌聲

栗ノ花歌ふ和ぬ花さうり夜 助音

そら鐘ノとももくや鐘も月ノ秋 好道

糸田通ノほめや花のぬきたる地 園女

鐘ノこゝしきんる程ヤ秋ノ鐘天竺 文朔

白鳥毛乃きんるハ知リしとかな 平砂

新撰集

貞固

曙や仏法宮を御遊遊のそ然 菴梁
未事此のあふいけの遊名が 素外

。位吉。漢里。漢吉の浦。岸の飛松。忘州。

位より此きまきして強し子祝 紙舟
眼松のからも雪やほそるる すすて
かゝらるるそは流終る人ひそか系 女泉
位吉のまきふし竹やす 蛤 女誓
のりつる帆乃流路をあるは海手か 奈未

位の内やおかき結して浦は月 其角
狗邊て汐午を春の汐干ふ 史邦
子祝ニあめふハ流るるの音 尺竹
飛松を流るるの流るるの音 希周
位よりのなや百もとも忘遊州 春郊
位吉のまき繩涼し流路の音 平砂
杉原し岸の向ひとせしの岸 中外
涼まきや杉をよめせて彼の音 把葉
満平ある風位吉のまき回分 乙雅

唯ねり 或代 別原 七月の眉 初水
初をちや 四年の 唯ね 被亂 素芳
月はこは くらふさつ 信まきよきしん 蛙鳴

。信土の社

四社し 及橋 糸の魚

夏ら〜ひ 眼のひらき 信ね 狐
月花ふ 起り 蛙うふ 汗六
古の道 神ふ 拍ふ 神ふ 路通
くあふ 何の 信授 糸る 神糸 園女

原し〜心 松ふ 道〜う 信神糸 知糸
古の海 ちや 初まの 眼と 糸を 祇堂
神ね ち 四う 乃 幣ふ 六の 糸 皇朝
信り〜乃 松ふ 上〜う 糸まの 信 参郊
糸我 若 葉久〜し 世〜の 石 灯籠 松架
松原 し 糸も 信の 心 神の 糸 倭百
あ〜こ 糸よ 汝平 糸月 乃 糸影 糸 太布
宮月 糸糸 筋糸 代 信 糸 糸 平紗
糸の 神 雷 糸 糸 糸 糸 糸 糸 輕舟

秋の朔と行あひの方とを子祝 高外

○高水 浅原小部 大和 同名者

夏針也一足とさうりさねあり 素道

○長井小浦 池

恐もあつとて之を中村の浦衝 一安

○遠里小部 池 位若部姓の仲はあつとてなり

柳少小いあを里小部の母が 露沾

弁共を借抄文 尾崎山に在るなり

弁共をこの馬小からこの世に繋ふ 果伴

兵庫 和田の伊勢・やま松

よりのむらさきを原ふや月号 未後

鳴呼志居楠子之草堂 溪川に在

禮ありは社あり百人合のま 支考
半しはもを常水存ふ候 清備
吟吟縁し名は千歳の石と云 書外

甲山

は山をいふ是處のまらひ甲山 市寛
甲山まらるるまきしをこの月 閑節
上代のまき目も是れ甲山 史邦

有間山

温泉 大湯女 小湯女 湯 人形奉

湯長女は使は世業の枝は哉 三石風
陰はかよふれ有るはまらる 哉志綱

有湯野

也
まらるるは常こまやゆら子規 丹波 正貞

西宮惠比須社

神作の朝と夕園の傳持 祇叶

○武庫山。川。後。浦。

月の影地入まらぬを此の山 明石 如貞
むらやまの山一しゆあかす 明石 明海
むらやまの山はきこゆるを 明石 吾雲

○卯影山 石出のこ 山影の同名を

山白し流る月を卯影石 枝靜

○布了の懸

深合ぬ布一巾や籠の秋一色。

○繩の浦

繩乃浦登岸の網や干燈籠 言水

○藤乃梅 生田社のあかき

二交のかけや藤乃梅乃藤 同四梅方 正武
ちりり梅や柳の太く 涼袋
吸る梅一校も好道梅の 龜文

新編 雑記

雑記

。次麻石。夏。浦。里。上邸

家をもよふもあはれは皆 白室
 宿の浦や師の果ふはあけ 一袂
 又ふまき人うさうさはるる系 言水
 月代や昔のふさし宿の浦 鬼費
 かゝるは道ちりもやうさうさ 芭蕉
 月とるさるもあはれはあはれ 素
 兼のふさし宿の上柳の柳斗 素
 けり人のよくは活ると秋の言 酒和

家をもよふ味させぬ宿の新系は 文考
 次への山しうふ何とうんこも 其南
 似合さきけしの一もやはらの里 杜西
 かなう入りのる目や宿の秋 涼菖
 在明はるりなれ日や宿の春 柳居
 宿をへは子の心うお時し定めぬの 菖菰
 五月もや宿のあけ 梅郊
 廻まのおもひうけは宿の月 春郊
 宿をへはる月とるさるもあはれ 扇良

名所向集下

雑記

おぼふ河も一に望くはは海土 秋也
松風と石されぬおのしるも外 涼袋
僧よやよ今らるる松の影のりき 秋色
杉一本ありし影こぼるるの月 赤外
己くせふ豆府あまのこははれを

吉就坊

千急ふ鳥の木の枝らりて遠おとえて
源一の筆下りた矣たにの帯もあは 芭蕉

此方の心乃目しなまもあはれし 春律

一乃谷 二の谷 三の谷

一の谷ふ修く月や道おとす 正後
帆のぬら風もあはれさうら 涼袋
そらき合ふ谷も一二乃谷あはれ 信佐

敷盛の墓 海邊(ま)

新雪きに石段積りし浦の音 貞佐

名所句集
〇世

藤のしふあそい世傳心苦ぢり 源氏袋

遠度の墓 約林村に在り

遠度此右の腕也山 梅 牛寂

須麻乎。明石 明石ハ接別カレト傳フ事ニモテ
まのあよりちをいひたり

月也此片明石の系以てつく 風虎

蛇牛角より己けよはし明石 芭蕉

山うけく卯のこはむぬ名 かき局

形代也とくも府内ハ此明石 石築

○和泉

塙 後燒物 遠代 後地 出産危下

ま〜もや塙の所乃古石兼 小糸

波塘より海乃深しき事如 雀子

高須 地こくともろお女あつらふ

ゆのしらとんをき地獄一休

まふあつ人もあつらふ地獄

今ハ名此ふまふら

足代名のまふ流石のふたを結赤外

大之換 妙玉寺こま

大算とら石のれ一根のこ換山 赤太

水間寺 観音

赤のめらやあつらふ後のかま

。 蟻通社 帆あつらふをねつけらるるを帆とあら

橙の葉は女つらあつらふ三宗風

けしと維なとかめを蟻通この木固

ふしとやゆ蛇ハ明のそ大坂布つ

雨あしあ梅はあつらふ蟻通 不遠

あつらふ酒をよとぶくみ日宮 赤外

○信太北森林。里。ふ枝の御。首

く結の首や信田の物と塚 秋廣

首の紫や梅ふかすの床より 高麗

首の紫の匂りおれてる床が 蓮谷

とくくふ信田の首は若きか 不遂

葉の菊ふくぬ女や夏の秋 未云

○紀伊

○紀乃川 ぐーや川の集こ

きくくうき成はくふや首 夏用

○妹脊山 別妹の山と云あり一説妹脊山矢和とありれと方角抄に倣いて定お出に

別あつて川筋涼し妹脊山 柳意

妹山の脚しあうやふ此月 乙娘

くくおわぬく妹脊の山 素月

新編 雑記

四寸岩子孫名氏不動坂

静翁の心海告めや回す思
貞徳
めまいたるん海に涼しあ動坂
急土

女人堂

けふとる女人禁制と

百合の女は唯と子名ふまはるは
乙由
あまふや一おろ名残か人本
貞佐
をまお楽ま書之厚さか人書
意翁

○古洞野山金剛峰寺

佛法傳 古砂 同茶 珠粒
氷峰 万年草

形梅れ傳法の師也之結の松 宗風
老木むらさき跡平 兎梅 夕翁
父母のまきりいさし 龍の音 芭蕉
卵塔乃をま結も安ん神を月 真南
商人のむとくま味まら跡山 尺牘
小二月ま舞の地マラまら水 岩翁
懈翁めまは字世の道北ハ 澄吹
蝶ま似と命下まられまや麻衣 涼侍

名所句集下

〇七五

新編

卷之四

○玉川 毒ありし 田原

珊瑚珠も破れて流せし山清水
遠くくえよ絶岸の玉川水はとも
あはれ月ふ春ぬも欲乃お川也 素外

伊廟橋 俗ニオノ名の橋 蛇柳

赤眼めも柳とくええし涼まよ 乙由

○奥院 岩の家。岩の洞 大師入定のふし

奥乃院竹や〜楊のよふこぢ 宗凡
ちるるゆるぬ若知〜 奥の院 杜由
花も咲身も啼しも松乃葉 素外

○若浦 岩・垣木

若の浦や汐満て面穿も御足 与武
月少れきこひの思ひや和音の浦 正全
ゆまふ和音の浦めて追分より 芭蕉
おまな鳥城の思ふは雲とあり 沾徳

名所句集下

〇共

新編 和名拾遺

浦の波絶え井もさすけあり	八軒
枯草の存性さし和さうは浦	貞山
岸をさし宍もさすけの足のか	貞堂
漁乃魚飛もさし和さうは浦	祝水
若の浦小入湯ありもゆき厚	窪節
よあ乃名はけりさすけさすけ	素外
和あさし行男はさしいさしをせ	
ういはさう連てさけりし行男波	龜箱
まそりねさしさすけの波	強雲

玉津いぢ社

伽羅山一山二石こ鏡山

伽羅石不保るは鏡山を我なり 横儿
 夕葉やまありは通るは津橋 素外

絶三井寺

浦のまきじより一室不絶三井る 花堂

吹版の浦

和泉丹は三回名の名不あり

名所詞集下

茶

若くは川吹風の目紙扱をが 可蘭
片身心きく一吹風は塔の声 岩箱
網形ふ吹風のうも後くれ 横几

西栗津社 加田

津屋のふ雅と世をまよぼす
一對の配を考て其のまを浦乃波 横几
何なりと新ハ持しく加田の海士 系外

○由良比那津。漢。門。丹後。同名を

仲津風きくむゆきの海邊 一正

○筆拾松。孝白

筆をくく心きく松乃さうが 系風

雲取山

やうきくふさふははく申者か 系風

○那智の滝 山。信後

流津もや又根ふ有てはなる 高風

くみまのちいさなちひて

天喜すのこの滝乃かまひが、

○祝世もろ 日新宮

流ハ汗補陀尾くくは林か 平砂

恨もはゆ助 平家のお葉とて信あり

川昔のた一時もさく程に 嵐雲

○熊野浦 山 蘇 野 草

毛のくはなふ川流も高き録 在時

茶茶除福の巻

ちのりしや死め茶茶流へ心 蝶友

○若なり川 山。流。里雄の山に

月ありく柳映りて高句何 三友

道成寺

世にありあけあり

まことのたねをいふる為か

芝栢

まてあり

はくしん果てしなく

素木

○沿路

沿路記

とのこり

沿路記のついでに

徳元

まてしぬる早はれとのこり

三平風

降下中沿路記のついでに

舟考

六月や甲子の申は沿路記

仙化

船物や沿路記のついでに

舟小

燕や沿路記のついでに

園依

沿路記のついでに

海如

沿路記

乃

新古今集

○ 須くも山 海

あつりまの女を海に浦衝 柳

○ 阿波

○ 鳴門 大鳴戸 小鳴戸 浦

鳴門の舟もくは海に松の浦 三島
徳信師阿波の舟と小鳴戸 其角

鳴門の舟もくは海に松の浦 氷花
波もくは海に松の浦 山夕
秋風の舟もくは海に松の浦 百和
船もくは海に松の浦 葵足

○ 土佐

○ 土佐山 檜 檜皮 帆柱 四玉檣

新古今集

三

あの雲のきぬ隔てよとて度 小知

○矢野く神山

萬葉して矢野く神山神寂ぬ 可葉

○伊予の湯

伊予 天子浴くしあふ下し言
湯の板とよ

湯ふ羽幸の藤の例も涼しいと度 太布

そと途し伊予の湯秋のハツリ 千外

○横波

宗の湯

形原と湯と石 回石 佐原と佐原と墓

五百とせれ名は佐原の湯外 宗風

今つと久々めり拾をた羽あけき 涼袋

志渡寺

志渡寺

玉流や竹のるりし律の声 三糸風

屏風浦 西の電の松

浦ハ屏風ヲ打付て云々言妙す言妙外 之覺

世安ぬ條ぬ木坊さしを西の松 三平凡

清塚 松尾さつあはは幼女のまじしの松と

秋と習わやけ女の魂よそじ 糸風

多水山 金田出大権現

花守し神の威徳の多水山 号マ

お少あしき幣や令のま事れ月 千外

提帳涼し浪波の鼻乃糸山 津家

○曲空前

○ 船歌。浪。古渡。葉の池

又哉んと糸乃古坂秋と 女考

○彦山 靈仙寺 暮木 山麓あり

左の山嶽やまなびの峰もこの秋 風

豊三利坊の山

神通坊阿もよふ一葉や神石公

神石公

今風法公乃はあはれかこし 風

○宇佐八幡宮

程さるぬ身もさるし 蝶のこゝろ 文考

四所漢寺

きらや 石佛の外も石仏多し 本堂室及び堂座の内

は山乃五五枝の二葉や花葉を 文考

首のよふに秋の影や花葉を 文考

州入とて花葉もあつてこの秋 涼衣

涼宮

細愛天神四秋 物多ふこの秋

空を越よとるふ空不涼のま 文考

門司の関 此は古赤間といふ所の所 父之の通了判ありつ司の関 此は 昇乃院の所 此は 神戶 此は 乙由

○豊後

次珠

昔の水不次珠 此は 支考

不知火 甲の浦に火二ツありお我か 乙 此は 乙

○筑前

水之の関

乙 此は 乙

ふらふらの名や一対筆津虫 一六

。箱崎 松 八幡宮

おのゝや松のぬきあむを松 之風
箱崎ふ海とく州乃花のよ 涼袋
幡乃泣あそくもる松より 枝舞

。生の松原

雪波徒てなぬせりせの松 之風

秋風の松よりそし生の松 之考
才の秋波何松のん生れ松
畑しらふまあなまの松 涼袋
夏まゝぬきあむやいさ月乃松 松架

。袖乃溪 りうこう 松

唐形を神の溪ふくもれ月 落戸 朱秀
海川のりふ流やまろく星の帯 祇堂

古今和歌集

〇三二

大宰府天満宮 安樂寺 飛梅梅のち

今も知れし神祇福木の同来風 三糸風

秋も冬も空も花梅月細し 祇宮

清く洗へ来く御平やいりる 涼御

梅安ふ神とましまして代々のまゝ 扇良

身も梅のちりや匂ふ御平の風 松加

。竈山。大梅。清心山

雨宮遊し花ふかきの山梅 山主 弘有

火梅やもほこののち竈山 三糸風

火あつて空も糊もや竈山 大梅

。翁山 金ヶ崎

海中の松ふ葉かゝる急や翁山 三糸風

。香椎宮 神宮皇后安産の地

鳥のちをち振やたて神の處 涼御

朝倉の山。山・ホカ友谷のよし海り古佐に云
朝倉の山。山・ホカ友谷のよし海り古佐に云
朝倉の山。山・ホカ友谷のよし海り古佐に云

○飛後

速見の浦 里
帆ヶみ今細きさくの浦の秋 師倉

中蔵川。一取川 俗名飛後川に山
花のよみさくさくあはれとせ河 雲風

○肥前

松浦山 領中振山佐賀石海川
ひまはらじし雪らん事さよ姫少松 雲吟
領市わら此山乃さすさく海老の宿 元隣

人の心を飾りしる松浦川 此の 素質
花とまゝの額巾安也ぬ酔 此の 素風
川舟へ額巾あるふ乃之居業 此の 素ト

松の岳

松の麓に白山の神と祀る

松の岳 此の 素風

黒髪山

伊弉諾の黒髪山を依りて神の

神娥眉 此の 素風

長山

三つあやまの長山を依りて神の

日原 此の 素風
入る也 此の 素風
酔半 此の 素風

丸山

鼻を 此の 素風

沼尻社

昔とて沼尻とて沼尻の沼尻有 去来

一八四二年二月孰の名を昔に 文考

神輿細装の像也

松本林天神社

社の沼や女家の沼ありて 宗風

連派乃會下

幣幣神也と條のさうま

雲仙山嶽

温泉

比嶽と云ふは松本あり
山麓に於てとあるの老杉半叶をん

沼尻や沼女家の女師と 宗風

沼尻

昔とて沼尻の沼尻乃有 宗風

五嶋之部

餘程と云ふは
産田をさし

福江沼 沼の破あり 五浦 沼浦 五浦

餘とて沼尻とて沼尻の沼尻 宗風

大宝寺 日下 神号庵仏に在る僧とくしう
寺のまじりの花かんたむるを
花菱

久かき

清くのみまはすけらかき

あまのこころ
神のまにまにまをみ私のまを昔に
あり

まろくもくしとま眼鏡

中瀬の魚の目浦 香川浦 ちかき

日くちや清くちまのち

布川の流 日下 岩殿にまはる人まの流
名所

唐語の行をいねの流涼し

久かき 城の嶽

まのせまもや魚乃の城の嶽

○肥後

兼他川 昔

山と河の神のつとめ田舎他河 宗風

阿蘇山

社也 伊岳温泉ニ烟穴也

阿蘇より来る月の沈黙と秋草の 宗風

名月のほまじりれ来る阿蘇此山 文考

言妙乃ももるも松の下 文考

○八代 他 密科

やいしるや密科の秋も今月 文考

江津川 川上よりくまの海苔の

苔の右乃月先縁し水あり 文考

○日向

岩屋戸豊玉姫の産ありし所といふ社未社
岩屋戸岩屋の由ありし
岩屋戸八たて似し姿せ神お歎 被岳

速日れお峯 岩屋のこ乃山こ松梅まー

女おの神也速日波津のま、
夏のおおあくくて目れ峯の歌 支百

伊松石 岩屋のあの海中こま

石やむー鴨津く津の海ひ松 被岳

千身の謝 岩屋のりをこ海へ入るこ

探まの啼の傷乃乃謝の系、
木の葉ちる歌をおもう庵のみ 支百

梯觸津

班あ死き中をも梯ある津の月 被岳

吹舟の浦 鵜居石

ちりちりたも風ふ吹舟れく挿板 鵜岳
鵜の板マゆ干ふ馬心仲の石

母堂長川

日向 鵜鶴草曾不合なる此産湯
くもも也

芦の子れせもよりし母堂長河

鵜の丘

此地あてまゝハ挿板なるたかき
鵜岳ニ同名の名おあり

鵜の丘をせ鵜の丘は此云遊ひ

鈴の嶽

言山し三月十六日おれま

やまのりく山く糸くお鈴の岳

梅の嶽

昔とて梅板なるう花実地ま積

梅の香ふくかれくおの嶽

。松り原

あて紀う原に櫛の山戸
み海あのみなりともり

海苔の味のを起るお也神心 交百

○大隅

。奈毛木の妻

ろらら何とかなげきれ夢の蝶声

貞室

梅の香

花の名も大まくと深やあけり梅落也

○薩麻平

。沖の小島 平原松原に一帯

以風お告よ小島を志す沖鶴 市仙

棒乃棒

持の棒お告り振りよほらおも 悦温

○對馬

○井交浦 井浦

名月や々宵城井のま乃浦一巴

○若菜山

若菜山や海乃鳴々ぬお麻の夢 雅郊

丁啼や若菜をよまふ山は夕風 何外

香の山

香の山は花の香は山ほのり 香言

○さき波

○雪の湯 牧のお牛おまひ松がと

あそこは若菜ふあまの湯 雅郊

○風か々

風車ハ吹ケリししけ雨のふ 蛇田

○呼子の松原

松原や風流あはれな子も 栗見

○天乃原

波白しあそぶ秋の天の意 對馬 竹波

○長門

早鞆社 和布刈社。赤間宮と云

け浦の和布刈とありや小宮堂 糸風

住吉社 松ヶ系けおなうと云うお洋

涼風楼しんまを神松のなほと 子か風

名所詞集下

の巻

壇の浦 平家没落の地

浦の石乃きんくく心ゆきや鹿系 重久
陸小涼風以の八百歳平家蟹 幸風
香秋跡は道へすやけ浦の秋 支考
秋の神々もくも嘆うて平家蟹
付死の泣い津を小ね千を 新波
月ま心や庭みも清き部を 涼袋
榭初ぬ部をかふし 清橋

清き松 何れに

くまき乃やけい松の秋時 支考
似く来て松くまきやうの影 涼袋

亀山八幡社

名世のきり神松風やうきと 幸風

○周防

岩園山

さうきんちんちんしん

岩園山 世ふ知らるる山 浄光

化糞坂

百合の志願おぼしや 化糞坂 支考

支考家の鏡の御札

支市

五月雨小僧の御札の御札 支考

依路、磯田

僕々小山の後の御札 支考

御札

子と女や馬場山 支考

○安ん逸云

名所目録下

○ 岩寺社麻 以備夕月ハ廊下と後一丁付ハ
白州五十丁中一

風の樹陰糸乃廊やいつく清 糸風
 玄詠也廻廊小板のぬやま紀 涼巻
 灯籠やいづく宮山波乃を 交考
 貝湖を早や床ふ乃岩寺 祇堂
 いさや火をまのまゝこのいつく清 涼袋
 追風び行れ涼しソウ清 松架
 巴廊の影か涼し仲の虹 不言
 海涼し百ハ灯の早も乃歌

まきやまの月のえくもなきの海 石線

弥山 山こ

雨の突須弥山と安藤を地 温古
 山と八げしの巻小胡白外 交考
 月も今や西くれなるお夜小立 涼袋

○ 後

名所目録下

〇 三

新編集

○ 鞆浦

破の室のホとよあり

左右ふ泓のいあり

左船く梢ふ茂る邊 肥の江 三島風

あーく深 能地浦 尾 浮網

うき網の名く様 美三四月 支考

○ 備中

○ 吉備の中山 吉備の小山 菅代山 田三河 細谷川

吉備の中山 備中備中の境 一島

吉備津彦社 吉備大倉の釜を杖はと後世に

蜂のきりも流ふや川 釜の山 釜き 釜え

三玉をひくふ 善乃 神のふ 祇堂

吉備津彦

の

ニ万代郷 夏もの大

うしほむや 貢くは 倭小舟のき 宿舟

○海茶

若戸乃渡

佐宗と常世形と海茶ト云
横列ニ目録の名不あり

尚所錄云ふく海茶海茶

七書

まふくし 浮例の止るのあまふ

膏阿

彼の男は海茶

せして 姑て 何せ 心浦の 因桂 時

か考

○牛意

牛意小舟の母もや 枕のき 仙風
陶焼玉うらうらや 新舟舟 漁光

○小舟

貝拾ふまや 舟の浦 舟舟

海路

○播磨

岩根の松

天清ま境内三木松きうて松松松

雪のけり松もくくき名取卯

梅翁

五月もふ屋師の松や庭の松

三木風

菊の葉も松の葉もくく松乃松

可角

ふきこも松の松もくく松の松

松松

松の松も松の松もくく松乃松

松松

ふりも松ある月や岩根の松

不言

松もぬくや片松雪の松

松外

。静の窟

静よ石の窟なとよ

みくまる石乃窟や花の窟

源傳

流野の松

流川や松の松はの松

三木風

高砂の浦

倭山松尾上此落松三の川の東

心ふのこをさきゆハ玉乃飾松
五月もや尾上の待比流ま家
嬉松乃満乳や陣勢云
杜う言ゆ及と二世津
初色もや松とふめて後も智
貴と山ゆ小松しと圓めさるる也

書寫山

教寺

まるく山と山に子遊を山に紅葉
何とを河成川して降序

室

津海泊

物津二同名あり

蝶多く影浮乃室や風月の津
楫も保て棹もせし夏の月

明石乃浦

泊歌

温純

二都也明石此舟のかとまは
紙舟

あきあきと梅と明石宿なる櫻出羽 未豊

式部と移りお

紫の争ひの石とさうさふ草のふ
かききに消りしを話す一り
袖を舞せしものかききと夏は月
ちりばち明石北朝のまじさうり
ぬるくも隠れぬ所ありさふ立
あきとくひ一軒り幾も宿石浮
素堂
涼紙
素外

人形社 大倉の谷

あきあきと梅と明石宿なる櫻
人形の争ひの石とさうさふ草のふ
かききに消りしを話す一り
袖を舞せしものかききと夏は月
ちりばち明石北朝のまじさうり
ぬるくも隠れぬ所ありさふ立
あきとくひ一軒り幾も宿石浮
素堂
涼紙
素外

印南 海川。中川の流る

雨すすもさかきも切し雨は月夜立掃 正信

○ 岡幡

○ 岡幡山

岡幡山とて曰ふ

またれどもははそ、岡幡のちの松

春伴

○ 三角山

ホくしと月とをみるくまみ山

花子

○ 石見

○ 高角山

人丸社

おのちかほふくまの郭に
香かよも花の現も石見深
祇堂

袂の里

小式部を居たりて衣を包て控

拾ひものも袂乃里れ子祝

宗風

浪山

常しゆく水風の山きくこ色 三子風

○出雲

○出雲社

かき地も彩る筆は雨えん妙 三子風
大坂
春科
雲七ツは雨方保一麻の身

○出雲山

ささゆくや月におくれとあも山 可礼
けさるゑ又晴くしり山小山 寛之

○出雲川

時とけさるゑもさるゑのよしの河 可礼

俳句

和歌山也草系小園の初ん軒 宗風

沼江 頼 氷魚

伯耆第一杉江の島不世々々々々 宗風
氷魚めーや雪の言溪筋向い 春耕

八重垣神社 在久佐の里 森

こゝめりやけのほまこめせ雪海若 救済
八重垣の筆乃ほりくく礼儀 宗風

八束穂ふん〜とまあまめ村あり 紙空

○但馬

○雪乃三了溪

三了溪や何代木陰ふれり云 宗風

○翠の潭山

柘小紀ろもろや山徳の意窟 市仙

芳洲

七味那瀬治を村の奥に言ふ廿二間斗下八雨
少くもしくぬれ村の底よりかゝるれ湖に

をふれまのよや涼き湖と岩 涼山

板仕跡

河とろ川山とろまをうたうらなく中央に
中を

板仕跡も湖のせう方以杜宇、

猿尾の湖

日佐山に言ふ廿五斗子と致ありの穴
石紙投て者はとよ奇異の湖に

ちき日や名子の猿尾の湖の系、

布の湖

日羅山村に布七匹の夫と云ふ系湖の
ちちすて生ありてちるはむよし

布のや涼く湖の湖は猿、

猿石

日羅村に言ふ一山岩猿の口はアをて猿上る
しき石にきん猿石小猿石あり

米秋と猿むの猿は猿石、

○丹後

九世戸

切戸氏 文殊閣 御灯籠 哨の香炉

一考メの切戸と姓をばへるに 乙由

○天橋立

橋立神社 破法水
橋立の神社 破法水の松系は橋立の松

橋立や杉より急のせて月夜ふ 三子風

橋立やきりきりぬ松乃一文を 高橋川

橋立やあまきと千石の滝 沽例

橋立の松きりきりぬ松乃一文を 柳枯

橋立やあまきと千石の滝 雲裡

橋立の松きりきりぬ松乃一文を 平道

橋立やあまきと千石の滝 宿邸

空のり天の橋立は松乃一文を 津波

○浦戸 乙由

浦戸の松きりきりぬ松乃一文を 昔屋

由之良溪山椒大まう同地三帝の墓
浄院絶序三回名の名所あり
浄院浄院のほふなり浄院あり 蓮谷

○丹波

丹波路 常山椒 ねまこ
丹波路のほふなり浄院あり 浄院

大江山大江山のあり 赤石の岳 十太り出をり
室を千重思つて大江山の山は日 貞室
大江山の布衣とくま 定良
湯をくし鬼まじ法もあま 系堂

千重山千重山の里
子る縁を以て名に乃かせ山 紙叶

村雲山里

すゝめくろいあひあひの七日 紙叶

〇 隠岐

後鳥羽神社

嶋前

世や昔目さくし村時由

佐保丸

タクヒ
離丸浮現

海防部にて佐保丸のあけ舟おられ、
同部は、拒たれしに大はるをまわし

海士の天の神乃事社

雲風

〇 磐の岳

注和、同右あり

一挺乃磐う岳やをけし人

〇 若狭

〇 雲ヶ嶽

雲の横お魚の道からおに 水流

八百比丘尼

八雲宮印寺に伝へしと也俗人急と
くして其寺をりといふ

まゝなること 杖を中なる地獄 如竹

○後醍醐山

まゝ後醍醐山 宗るまゝ 後醍醐山 費る

○越前

湯尾峠 湯尾とて瘧瘧のまゝといふ

月形名紙色をのひておの神 芭蕉

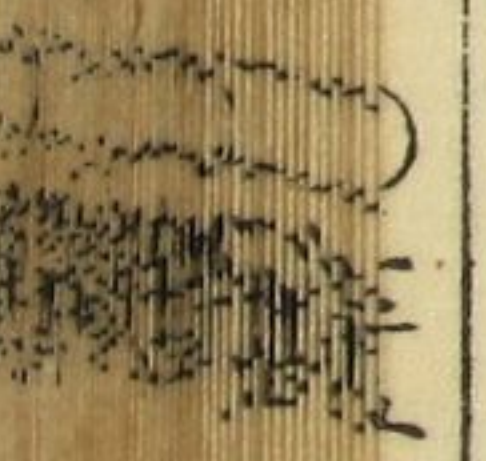
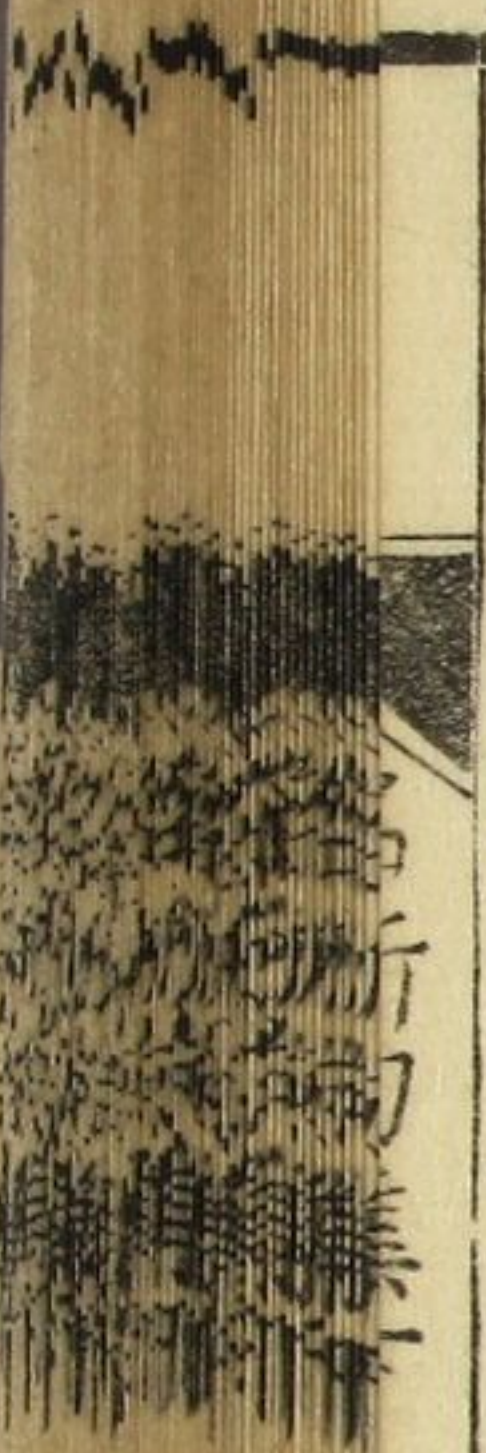
夏あふまゝもやまて神さし 深袋

冬あふまゝ酒湯の湯乃をさか候

○南麓

山。浦。濱。お海紙川流々大隈こ

一葉はふ枝乃 帆程体めり 三友



宗比神社 格の二世上人にほろりまひりて

月清一遊りあつらふ乃上 芭蕉

待の邊

あつらひしほろりもあつらひの待の邊 但る 安成

り色の邊 まをとの小貝

淋きも次なる待の浦の秋 芭蕉

糸よあつらひまをとの縁の邊 芭蕉

舟のま乃波りとかいれこの邊 支考

浅水の橋 あさみづの橋。あさみづの江。あさみづの橋に

あさみづの江も月かみの縁の邊 芭蕉

玉江 目ふ 拾津 回石

月かみせよ玉江の縁と刈まを 芭蕉

新風をまの玉江乃浦をき 乙刈

新風をまの玉江乃浦をき 支考

日和山

いよふたにやうらむて日和山 支考
夕立のそよ風もあし日和山 支考
傍音やかゝるまは日和山 支考

足羽川

川その秋のこゝろを足羽川 支考

帆山寺

府中

千の條をけりて帆山寺 支考

師坂山

神々系も雪もやそ師坂山 支考

○加賀

金澤

初鍾也市の巾ひく浅也川 深荒

小松

まほししち名おしほあくと枯唐 芭蕉

。深系多因八幡ま実望う御おりの程と系

まお替の頭をとの刀由系甲 三子風

むさんやぶ甲乃乃おれきんくを 芭蕉

今又州の深もながりる免 乙由

安宅 松冥

徳宗おちぬ色は黒い安宅の松光 三子風
雪との養之れ水骨中と打と兒 大坂 晚山

。白山 格瘦社。雷の多。まきしのみ年
石二のきい海日あれたけ山の雪八階をこ

白山も陰別りくらきこの飲 三子風

ま〜山やまきハ一おほくおに 三子考

雪さくえてあか杉建し〜んこを 三子考

。溪の渡 山伏

郊おのふ流のささるも春風 あト

紫雲湯 山中 昔白雲は湯にひるきて疾疾
くさる白雲湯といふ

山中も葉のまらぬ湯の白し 芭蕉

後やもぬ昌蒲さむく湯は散り 支考

仙人もあつる湯入の松花の露 乙由

那谷親きまき 奇石さましくあり

石山の石さる白し 秋の風 芭蕉

。以哉の松 西上人の寺あり

松をふとく風や吹く渡のま 支考

。井乃浦

神をよこさるく井の浦 柳亭

○能登

筆写

筆写もまじく月夜鳥

津守

岩瀬の夜

多くなよ月小岩瀬の月と船

船郊

○依渡

依渡の海

金山

罪なるとて死ふの月も依渡を丸

才南

○雪の言渡

言渡や刀の上の雪の帆上げみ

太布

○越後

越の山 山名。越の中山 越中。越の大山 越中

越路 条下はけしきのみちなりハはるふりまき
雪車 雪の干き

之り月北地たるも越後の雨乃上
 の笑
 梅立て越の原をやとてはくし
 心秀
 ほくろひのむきふこさこの平
 涼菟
 日あたるまゝの妙かうく山橋
 涼節
 とき解やするしつ平おちるむとつ
 春郊
 あり他はまゝのなる免や越の人

けりるもや今越越語の兼履道
 不登
 何くを活しむる中一越の夏

親より次 市ありの海まで

人として親より次と、悲しや
 涼菟
 保とくさひる赤いまゝ出る親知を
 涼菟
 う親もや夏をらう後ハ親より次
 涼上
 親より、通さし夏は海なる
 全尾

蒼海も依波も横も銀河 芭蕉

米山

葦の如くも米山にわたりし一程携 三才風

七不思議之記

草水油

桐月本村山雲の田にをるとある涌水乃
泡沫皆油と

代もふ油もまろし神いされ 梅郊

如法寺村の穴

穴中を定めてあり方と名を聞かす
例に穴ありをうら石臼と名を白の穴
井の筒と云ふ事と和と云ふ事と
首のそあちとありて所を穴と名を
外へも呼ひきき

室も乃ら乃ら色も建めきおそひ

送さ井

多分中村森の中ニ杉多あり
松葉上之の枝を根のそらと云ふ傳ふ

毛あゝか〜精も也まの送さ井

浪の影月

南田の仲にあり浪の所定中ニ七才
の形もあき

月草の筆も此は枯るや仲の月

ハツ梅 小樽村にあり花一朶に実ハラ生ると

ハツ梅も実りしを候まじの枝 梅歌

之度西栗 安田に五一年に多かりし実のり栗の系大に産し

照る月も咲くくま交栗の花

かまひとら 風を け風ありと強めてゆれ

羅刀てじうく半月にかまひとら

○越中

有磯海 浪もあこ

海松のえらるる神代ゆめま磯海 宗風
早稲の香をけりけり入石首磯海 苞蒸

多胡の浦 晴。海。森

是末系多胡月夜多胡乃秋 文考

多胡の浦は打めく忍れはるる 花簾

。奈吉の海 江。湊。門

五月の鳥も山も隠れ奈吉の海 写海 蝶羽

ひあゝるをみそ

片舟ぬ海は声々奈吉有哉 城中 好風

。石能路

立山と浪名能路め糸印 西考

○ 飛彈

。位山 いらの本筋がなると 吉方塔位うけて

父きあまの形来そら〜のや下 京 一雪

位山越申く石もまじしよ 大坂 高朝

花玉〜ハハ〜と位山さ〜 下 不音

名月や文〜定数位山 花英

○美濃

美濃海

中 柿 高 嘉 山

杉月ふちるや美濃海の早味 惟珍

床物説

美濃をい玉境

少中言をいけくまぬ玉 不角
とに連る床伸と苦の角り小 辰角

茶乃ともふ老の床さめや新美ひ 乙由
宵の好はぬもて海山ゆいせ 平砂

乃盤高家塚

山中村と上のる

一説といふくや時と美人好 不角

不破北軍

板鹿山

火は抄抄や美伸も不破の空 京 西武
月の空風されてやました空をけ 吉長

秋風也新也鳥と不破の空 芭蕉
 花梅雪偏ととも板ひし 宗元
 稲妻のばまらんり不破の空 荷葉
 木の葉かきて焚刀せよ不破の空 宗下
 旅人や向う合せと不破の月 亦因
 月利一とこらる宿とる月と外 如行
 穿ちてゆく人不破此月 虚谷
 常もわ不破法空もさる御年 貞佐
 渺ふと云とる色不破の月 五瓶

月とれと残態不空も不破の空 苇梅
 燈の光と秋此の板の不破乃空 不造
 婦ももやのりそかた不破此空 了因
 新のりもや不破の空も不破此空 十友
 月和より其と涼と不破の空 芭蕉
 新のりもや不破の空も不破此空 宗外

桑り原 古戰場

蟬の初る亦この矢底の打隠 不角

。 跡上の里 じり遊女ありし地と

こゝの別れ 鹿野 鶴山 不角
と秋とて 居れハ 居るの 拓と 乙由
何の松よ 人き 修ぬ 有りの 寿角
ませ 垣や 遊女と 暮を 此 破る 辰角
糸は 交お 別れ して 暮る 白 涼袋

物見の松

まき野うぶ

古給人うんの松 一松 一松

あらん氏の松 本なる 藤の 外 不角
涼 一と ち何 成松の 木と 暮れ 乙由
怒 ぬら 難力 あつら ちお ぬ外 老胤
名 月成 あらん の松 一と ち 旧室

養老老の滝

百の字と けは 涼 滝の 乙由

改序

城海や吉井の清流を望む 芭蕉

長良川

鮎鱒烟

又や類ひそよの川に鮎鱒 芭蕉
おりのうして鮎鱒なるき 鮎鱒が
きりゆゑに鮎鱒もつらふ 誠人
鮎鱒の西よは母火ふりて 為守
松崎し雲やもよほれさ 可業
そらとらやのりやゆゑに 不詳

鮎鱒はふよ振てふらふ 来道

三侯

三すこやけ麻の煮えは 乙由

いじめき川

俗に糸めき川に

繭や考るる糸めき川の 不角

往来の松 加納宿

尺よ〜と啼也は年此松の蝶 不角
松陰也は来此汗の入不 奇角

。給葉山

昔杉平の屋敷くしをま別れの
およつきを同創しは手よの伝匠し

立別れいかなせぬ中も峰の松 貞迹
松風うあらくひの末や杜宇 不角
立別れ早もや稲葉山の山ろく 兼外

行平墓

竈上村とくし

是さ此堂顔もも也取り来ぬ 不角

一春の清水 十女小ま 法大師がたもと

二人〜ふま〜り春が〜岩陰が 不角

西行塚 大井村

昔稲葉ま〜ゆ〜つれ西り塚 宗風
あふ天もか〜も顔〜度〜雨 辰角

〇信濃

境橋

英法佐法の境に十石峠とて下れに

こゝにおやみぬ物経る境法 不角

〇小曾路 歩坂

小曾の信をよせぬくまの竹 芭蕉

くまの丸強めしおろ小曾の籠

小曾山の弁やここと呼ぶる 小曾

松雷も小曾此境のめる松 淨六

山吹も巴も出る田うまの松

小曾いさこも嶮なる大根 佐々 支考

乙をいさこも嶮なる小曾の松 佐々 猿轡

初葉もまも嶮 洞の小曾大根 英法 周如

こゝの松やきりり小曾の松 英法 源代

小曾川にやの言りして雪の秋 芦皓

五日の松や今いさこも嶮 英法 津安

こゝもくく川き山若葉 素外

玉味等也小栗の山邊の饅頭粉 赤外

男勝女庵

妻を食ふと上を食ふと下

女男勝の国もやん小虎の島 不角

かぶり坂 かぶりの坂

法もさかへし饅頭坂は是とある 不角

合点坂 大難不

鄭亦とい合点坂にて括て雪の碑 不角

小蹄、勝 二節より別れ居る

清きやの千のかり一紙小舟の勝 不角

隆臺八根の響やまの原し 不角

海を舟中よ白地や小舟の勝 不角

寝覺の里 甚多美浦等より約の地ありて不角地也
他名に美徳の名ありて別れを

子祝我にかる流るる床を小村 不角

旅人さると交ち狼の山おろし 不角
名おし床え影也木陰雲 壽角
床啼也床えの床は美の自心 芦皓

。棧 ホウのかげ浜の丸木棧也
昔演能の場ふん今終形のも後れまゆくよあり

かけ棧や今臥うらむ苦うらむ 菟葱
去方とれえ棧は月も寒のれは 越人
法良の松明やふふよメツ等 不角
のけ棧や蠅も枯あくるのさの上 冬紋

棧や葉もうくまおの波心 素外

約ヶ山嶽 六月き消ていふお後さ山こ

木城川 日報や雪の約ヶ岳 周如
輝の雪お林葉たり所と城さ龜 壽角
東海やちくくいふ夏れ約の岳 辰角

徳息寺 まの腰 ぎ仲巴山吹の像ま

旁乃乃乃た右よ言れ床の夢 松岳

結榎ヶ原 古戰場

因く死るゝの指名も古扇か 凍袋
負てちる籠多もあり電の輝

糸不鞆ヶ嶽

白くもすこ地乃よ先の電の輝 不角

餅焼山

餅焼山 餅焼山 餅焼山

我鬼山も後よりやうる水立 寺南

上流行神社

湖の東の山に上流行神社 上流行神社

下流行神社

湖の西の山に下流行神社 下流行神社

雪をちるや穂もか此岸の川流し 芭蕉

流石の雨よ波の各跡やすゝぬ 貞徳

湖の流るるも久しき水 可言

月さへもや照るとも力不流行跡 素南

和国上流

名所句集下

七五

定方ふま乃乃のの仍の果の果の果の果の 冬英

月輪ツキリン

かきま川のまじりのあはしつる

世や浮洲ウキシマ月ツキ心ココロ入息イキおと息イキ 不角

流麻リウマ川カハ

はくま川に流るる

ちくま川チクマカハ志シの山ヤマ也ヤ絞シヨクの籠カゴ 貞角

岩イハ原ハラ山ヤマ

ちくま川に流るる

ちくま川チクマカハ志シの山ヤマ也ヤ絞シヨクの籠カゴ 貞角
一志イツシの山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ 素推

文科ブンカ

山里。姨捨山 姨捨石。有山

付ツケ也ヤ姨イハの山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ 若葉

姨イハ捨シテ山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ 宗風

姨イハ捨シテ山ヤマの山ヤマの山ヤマの山ヤマ 越人
古 治原

一羽啼てしりや田あゝの杜宇 古 柳結
 一身の傍し月の郷方 古 祇徳
 晴夜や月ハ浮世に於て 古 栖雀
 月くえんも在照の海の空 古 素芹
 物とては月の田毎ハ向の傍 古 素兒
 文神の月や移るふの雨斗 古 不言
 五月あや田あゝ小満の苗のこ 古 芳吉
 文神や月のこころく雪所 古 素外
 月々月我は捨るやあふ 古 素外

善光寺

ときと光しりちと月とを 古 宗祇
 葦や雪の雪ふりて明 古 柳居
 立白のまを伴ふん 古 操舟
 雪も白のまかけとりの龍 古 菴梁
 雪も白の佛ハ 古 素外

戸隠山神社

神亦し谷の戸後乃茂り外言用 為甲
川をりし神の力や粟此穂 苞梁

黒姫山

仲きりくまの峰七や夏亦立 苞梁

浅間山

里 烟 青大ニ山焼て吹ぬセし石を
吹て收し
吹ぬを石ハ浅間此神も外 苞葉
川の水山ハ煙りて世も世も 万子

若はにこ我鼻たふしとまきふ 不角
雨の降身えぬ烟波告める 寿南
烟の曲く浅間の風涼し 涼袋
かよふす何と浅間は烟 春郊
夕日や浅間のやま此物まれ 百丈
晴の心申よ浅間は乃々すま 戸外
己身と焼山ハ遠くを浅間山 五雲
銀帯や烟の浅間の山つ 素外

子持山 信子山氏未詳

子持山何台観木の松樹 不南

碓氷山 坂盤根石

碓氷山を碓氷の系を此子記 系風
よりふくむ時を碓氷の種根石 史邦
らん移石余は又んさやいし時言 辰角

○甲斐

甲斐乃白根 毎の奄

甲斐乃白根や畑の白き若たに 支磨
陰の屋の結の白根やまの別 井風

富士浅間大倉積 在郡士田に建
三五一とあり

夏山や三五一乃大倉積 井風

文延山久遠寺 七面山 菅谷 風穴 春家 院
 月の蓋石平や谷ふりふ文延山 京 徳宗
 菅の若くも菅し 文延山 井風
 山寂し輝く 自我偈の管さき 平砂

石和川

石和川 氏 歌月石

夢も後小出て 氷藏悔の石和川 涼帝
 鮎さしぬ石和乃昔物くま 素外

澄の山 抄の磯 非海邊 山岸 されと 水音を
よめり

月の船さぬの磯かしの玉 京 如貞
 身みしむし 縁也 澄の山おほし 涼帝
 傳續くまきや 谷みり 澄北山 井風
 今そ月 持出の磯乃むく鳥
 名月や 雲かゝ 清き 澄の山 常梅
 うれもよも 縁を 記 澄の山 一音
 秋涼し 乃く 服も 澄乃山 素外

信玄古塔

夏州やありし不花人の玉座
今身は八幡幕の内も秋落
秋風やけおる庭控りて
素外

酒折宮

串子歌の宮よしのけい松よ夏
仰きみる影や眠りの雲の目
素外

二水川

山も若菜川もよみよふ三水哉
素外

那内 後宿

尾端の蘭干も奥の暑も
汗六

猪橋

猪橋や月も夜もぬ水の音
素外

父月や鴨もあふ河小鳥川 露水

○乃祿川 底は溜りてくまきとて清り 石忠左
坂東を布 尾 陸

父ともや熊鷹研流を乃祿の寺 輕舟
坂東の一番地也やた家 河 水樹

○倅香保 沼 温泉

伊まら流根や三法ふとて早 夏和
いほ女の媚や梅咲時を 素角

沼よ鴨湯の名残とせぬを 素外

常世屋敷 佐中 赤松 とのこはる

三原の伝ふり伝めを有よふ 珍夕
癒るれ幡よ打もも河小鳥も 壽角
さしれと花影ししを家伝 素角

岡部六浦を暮 岡部 善美 所をこま

苔の花枝もくよ思ふや 不角

世に成りし何向と通し小蝶の教 壽角

○下野

大叢山昆ゆつ天 足利

夏山やち流とも 流るる 一る光

間々回

初きうまに公ま〜回也ほ〜き次 霞曉

室此八等 下野熱社に 烟 大のまろと禁す

弓〜まへの流らぬや 妙いまれ 貞依
烟何室此八等乃〜まろと禁す 室三
陽をやかへのふまれと神の場 素推
入梅雪や室此八等の田乃烟 意侍
只なる〜ぬまろと禁す 雨の煙をよ 津家

下野熱社

室此八等

日光山東照宮

私雨 慈照心多 仏法信 係 塗物類 後ありし

あゝ青葉若菜此日の光り 芭蕉
 貴一天子才一照日杉乃花 冷々
 貝不流亦て咳也けさう地相のむ 津家
 威ふ満る旭や方此時方とるま 操舟
 徳の凡りありこしとるしげ走り 雲鳳
 神さあふ乃終の花や代り松 市仙
 治めあせ春日此法々ニ荒山 在昂
 木と涼し私ふらめあめの下 素外

山菱の橋

今云神像とせ

山菱れ橋や若葉の刷毛細工 九室

索麩湯

若くは年 索麩を流すありし

日ささくらむや索麩湯は汗入心 年月

霧降の滝

今烟霧のこ

傘かたむねもさ方ゆる流時今 栄水

各所台集

〇三

志方津の流を招所流る月 其礼

東長身人の流

言ハニ夫斗身以てめて流の
義とらとるこ

將付の流よつらむや高流れりめ 菖菫
方由れもいこく流の流流 粟水
父まやふ流し杉山流の流 湖月
吾何し流小くみふる流 赤外

申禪寺

湖 庵 庵 庵

尾のふ紀流初くや流此年流 平砂
日和流以ハ流流乃申禪寺 其葉

五松山

菖菫 向申ニ同者

荆流して五松山より衣之 芳良
月流掃く五松山小流流し 希因
五松山や流る流流の柳とと 梳あ
五松山や流る流流の衣若乃流 風管
老初くやとありらし五松山 西外

初夏雷雨少くはる

めくくくも玉松山の雲を染 津家

宗部宮

柿本人丸の灵神こゝを 紙をこゝ

まきとみらう安あひのしなこゝ 赤推

殺生石

那以せ 今程頃と用り

石魂や石の穴の穴をくがとよん 宗風
飛やりの穴の穴に石の上 麻父

げ石の破れと申しく女布を 考破
物終よ物と形ともの毒菌 龜齡
日げ入、那以せかの物志を鏡物 赤推
そいひきり石の何とみれれ 宝一
何けふく毒石をぬもみせ 花嫁
今も尾も形れかゝ形物と系 素外

流るる場

形次山 温泉 修別形次 名はの 所場

六月やばく流しを流るる場 宝一

遊河柳

甘野宿 西河のふもとに世ふまゝ
さう紙端 ちてかくりまゝ

一回一投植てまきまゝ柳一のみ
泉影又る人紙物も柳が
柳又之傍水見くゝる思分
柳ちる清み個れ石雨く
まゝ柳も遊河の終一様存れ徳
之影れまゝ團のうくや歩了陰
馬も汗まじり一思影く柳が
亭子思くまゝさ乃柳一陰
芭蕉 宗風 更登 芒村 痴語 宝言 津家 素外

佛頂和尚山拈

雲岸寺の奥山上の岩崖に

木はきこる庭へ破く尺多木立 芭蕉

○出羽

宮上川

奥羽第一乃を宮上川と
いふ也 仙人堂

五月の初紙屋来ぬて厚し宮上川 芭蕉

名所南集

芭蕉

暑き日候海不入り空上川 芭蕉
 稲妻おれお給流下り空上川 松尾
 き解や物も首ゆる空上川 素負
 霧籠の及よまてくも空上川 雪言
 秋此の候のせりるもあは川 不言
 若き日や形も首ゆる空上川 洋家

温海山

海はくさふくくも浦と遠く

ありき言吹浦けて夕納涼 芭蕉
 ありき言吹浦けて夕納涼 芭蕉

湯殿山

意乃山・松の松

雲下とふ月おそお羽の湯殿山系 一好
 湯殿山や不滅乃松瓜夏水 三子風
 清々にぬ湯殿不濡を被けり 芭蕉
 湯殿山候や心る乃同のふ 乃良

月山

雲此の集に爾れて月の山 芭蕉

名所詞集

芭蕉

羽黒山 念福院社

涼しきやはほの三ヶ月に羽黒山 芭蕉
有かろや雪を以てまじりて
かきつるの川をあの影や照らす山 吳龍

大沼浮橋

羽黒山麓系依沢に有大小六十餘の
の石を松柏を介あある系水せり
まき多秋かけて目あ又うかめり風
まきこひ又向いてより風系石斜とせ
出ろ流くく引けて暖はしけ 塘雨
ふるきれ押とせりや流一つ 希園

行目河原

眺かへる仙山金沢村移り
月洗川
雪又帝や行目かへる河と流 系風
名や傍心眺りしのも秋の都り 希園

雄鹿島

初田 岩屋松、また大出松り山松とて
あ中松のくは五色の自然名あり
初虹や橋又びり雄鹿の寺 希園

寒風山

日本 多紀諸山にて最大は寒風山とせ
はあそこの風系松を以て秋と云

多紀諸山

の類

六月や十三日風山と暮る時 朔四

鳥海山

六月法人多訪あり言山と名付た山 和列大峰の如し

毛、以て多しぬ雪は羽と仰せ智海 三ノ嵐
雪解や浪打のうすき雪乃海 三ノ夕
冬もあふや雪は八百里の海 三ノ霧
湯の心を鳥海山乃ハ三ノ雪 三ノ雪

鳥海山

九十九の森 腰掛け 以のゆきゆくくふ 蚪 湯守 以試 試の冬也

鳥海山の月や流人乃助け船 三ノ菴
おや秋や海の癒ふや時時 言水
鳥海や雨よ西施の糸ふれむ 芭蕉
沢城や宍睡ぬれて海原し 三ノ
父世もれや橋ふ縁む波の心 三ノ風
西行橋も歩信の雲ふまき控ると 三ノ
波の梢実れも和のたか橋 三ノ
鳥海や雪ともしらふ交接 三ノ
腰掛けや初夜越のまきと 三ノ

軒窓やとちり清く帆の唇は声 乙由
 急所やあふるとし繁け柳髪 大坂 園窓樹
 秋も経て急所や花神 京 後外
 急所や指す紀海し月の若 二冊 活山
 あら底のこころもあふおきふ川別棹 結城
 小艇あはれやとちりや五湖の秋 一橋 雁宕
 急所や枝の上清雪は峯 尾法 楳江
 上と清梅の雪や梅乃実 謀江
 急所や月のかさちも三百斗 呉夕

急所や細細あらし梅 陰 柳重
 軒窓乃拾り清しき雲外 夢明
 急所のこころもあふおきふ川別棹 秀玉
 きこしるや花の上申く梅 網 意得
 急所やちけり雪は梅乃復の海 津友
 急所や梅乃拾りや花で現
 腰かけやうらふ紀海はれええ

急所や梅乃拾りや花で現
 腰かけやうらふ紀海はれええ

名所全集
養神や校の細を結くす今 乙外

厨川

貞任の城あり

見せしむるせと六月きし厨川

津安

岩手山。森。宮。岡。里。谷の塚

二考うハ岩手山をいふはほくきん 素連
風はまの雪は岩手山をいふはほくきん 津安

平白泉 言破田池

夏野や兵とももの夏は秋 色甚
了れどもよき秋の風は白毛外 芳良
古墳や柵と徳乃きる田面 津安

衣川 冥 蛙

秋風北破れはけり衣川 室言
白毛やもき徳ひてあう田面 津安

名所全集

のり

光堂

月夜常りあやまじりの光堂 三島
 五里もゆの輝り強し光堂 芭蕉
 下宮や杉と琥珀のやうな光堂 津家
 木のなかへ月をさし光堂 乙外
 志方ひく曲やむしり光堂 宝馬
 光堂しる名も久々の光堂 素外

藤谷ヶ空

昆河門天

有がわ空屋のまど 藤乃汗 津家

小樽川

炭焼をさう日許

くれなる也 傍のまき 藤乃汗 津家

糸菌の伝

あれむの伝に・傍
素外とあまの伝に境内に

あまの伝に 伝に 行末 伝に 代の秋 室言
傳の伝に 奇傳を 伝に 室言 津家

張冠橋

松原し 車か停りし 夕暮を 津安

花鳥

あゝ 晴やもき 以 野の 夕日 晴 津安

金花山

砂金 金海峯。とらぬ山を 停りし

あはく 一日の 遊や 金花山 不及
月一 停り 金花山 乃 一 室

向かひし 花さくを 陸奥 箱の 夢 津安

緒終乃橋 とらぬの橋

松原し 夕暮の 橋や 秋の 夢 室
五月 舟の 夕や 緒終乃 橋 津安

松島 松島 橋 岫 四十八 停りし

地を 遠く 舟よ あり 夕日 の 叙 室
あゝ 夕暮 何を とも 秋 此 京 梅 菊

名所集

津安

博の世よ月とく松の流めらるゝ 素外

。塩竈の浦

六社大明神 神の塩竈
千賀の浦 塩竈は旧名あり

月を今も千賀の塩竈力ふし 梅翁

夕月や花あもし千賀の汐風 未道

神のや再し千賀のくさね 久延

塩の浦の浦博のふし秋のきり 室言

けふとある部角方や千賀の秋 素外

。野田乃玉川 千巻

河の名乃玉や碎けそ花散 素健

。末の松山 今六寺とありし ところ柚の葉

松山も流るや海へけさ月る 友聲

我もいづ末乃松山やき次 乙外

岩も目し末のまの山をさし 素健

。壺碑

市川村多賀城址

碑やげらぬ乃花のみら 室言
巡礼の書長くても玉の秋 素健
國傳より事なくも里路の秋 素外

十 府 浦・菱菰

菱菰のまけふきおんを 室馬

〇 奥乃牧

ふるやうやくのたがひの奥の牧 後橋

〇 宮城跡 在あゝのこ秋 秋軸の筆

まじゆやまの流あもよめを記 了首
まじゆやまの流あもよめを記 素健
宮城跡やまの流あもよめを記 素健
宮城跡やまの流あもよめを記 素健
宮城跡やまの流あもよめを記 素健
宮城跡やまの流あもよめを記 素健

木の下端 茶師堂

○奈古曾の屏

今や又冥くし名あせ此ま鹿 意得

伊達此大木戸 龍摺

龍摺の石も海をれ又すみ 紐舟
跡をる地山試行此大木戸也 室
目さうらとや石と龍乃摺をこい 糸外

首松原

文ハ首の松原世々く風もふし 丸簾

西行菴田地 田示

筆や井乃石の庵此流 深

鯖跡匠五寺

版塚の里 流友一家の石碑
義経兵衛宗持の石あり

石も太刀を白半月小飾此紙幟 菴
石よりしげと古き洞や苔乃と 津家

から柳石 〇まの里 第馬川のまの石は今も石に面り
方下ニあると云

早苗とらふりや昔思ふ物 芭蕉

草もふるも面やそれこそと 宝言

菜の實や畑はまゝにぬゑふ物 津安

こちれくや汗をる馬の玉ふ物 高得

〇安達ヶ原玉塚 岩窟ま
悪鬼伝しハ成列是之郡と云

海うらまや鬼の影も夕納涼 紙舟

若竹や安達ヶ原も鹿の角 乙由

いづちふ明く津を梅のふ 不言

〇吾田多良

ま〜雨これおのりもやうら根 宝言

〇安積山 山の井 信 ぶらひ

お積山新や井ふ〜新々姓 京 正業

先ひひりふすまゑらとむいし 津安

い〜るや安積の浪れ浪を帝 月成

かじりていささか霧の沼に 宝集
沼の淵は浅くも人の極なせり 素外

阿武隈川

埋木七俵 左陸同名也

父を此阿武隈川と押せぬ 宝馬

白川の宴

二所の舞 徳富実のほりまゝ

風流のほりぬ奥に四柱唄 芭蕉
早苗よも我ふら思き日暮外

うねも波のたしふ宴の響き 芳良
白川や舞よ宴のゆるき 東順
能國城後をうら秋の風 純亮
白川や舞の秋風吹き 素外
白川や風乃ほきりけの秋 宝馬
うら川の宴にほきりけの秋 柳水
いとやまも花よの二所は宴 素外
貝ふけし形も形も宴にあり 津家
白川の涼よ通せ舞に舞を 素外

○常陸

○鹿波山。まきぎこの田井・浮山・吉ヶ山 著萩
あきの実 齊小庭のむ多くよあり

枯れぬ鹿波をいふ川と伸の石 百里
夏草やまるとんも西の鹿波山あり 貞佐
鹿波うら流れてあけり 浪河 冬旅
鹿波かくりりや一葉を部云 未示
白雪の輝や双いの夕ほろを 百丈

○栗下の田井

父をや時をれて一息をくくも山 玉圃
うきもや船をくし候の鹿波山 雨井
期もや田井はくもも隔無 素外

父軒やまはくくの田井小市城 竜遊

○えんふせ川 橋川 橋矣

流はる狼の石や積りてまは魚 風虎

秋の葉やうねるの心は梅川 子風
 弟の鞋乃きほらやあけ来ては空の
 むらさしとてうら若葉の様魚 弟梅
 ひまや名よ流れる梅川 角麻
 川あやしくふ急れ初さう 素英

鹿嶋神社

浦。山。也。矢此根石はじし麻
 旧名流くうあり

余風動せしとあうらむせぬ麻草松 子風
 白くおのきや氷くまゝ矢の根石、

はし照無縁の春日影をし 素竹
 人の代はつとてあうらむはじし外 葵石

み中

鹿嶋のあそびやあはれの麻草松 津安

要石

石のあそび 旧名

あそびやあそびのりよる要石 室言
 神垣のまゝれあそび岩はじし 角麻
 け石のあそびきりい若葉を 湖月

花のこころ社地のまゝにありて 素外

水戸海道

ほろほろと流るる水ありて 山店

○下総

其間の楓

弘法寺堂前より

田舎乃ち秋みとらんえは若楓 史邦

さしりさふ深きまのちを梅

大木やまのれくはまの楓 山店

まきくももをい間うら後星の橋 吉門

我よりふ深きまのちを 紫鳳

茂るる川をあ方やまの間の老楓 素外

○結橋 井浦へ江

結橋や田舎のまゝにありて 山店

名所詞集下

一〇四番

結核の流と水田のふら野部 史邦
 結核乃西極やさ北野とも 嵐林
 結核の結也くわけさ北野 春郊
 林一され名も結とつるの落葉外 未道
 文もつとつるの結核神しんれ 津富
 因を沼をさる結核のさ日る 赤外

國府巻

里見氏の必法眺をよきふこ

あ房乃と総ししろふとあてふ未さ 嵐林

切岸やう花もくし一文あ 山店
 うき雪やたもよふれあふん 史邦

同古戰場

いろちれさなれとくしきまあ 史邦
 幽冥の遊し雨や花しけき 山店
 夏をころおくかき若葉外 嵐林
 首領や空ハ管北葉かくれ
 そ塚や尖ふ咲さる花と次 史邦

首領や人もなきぬき世殿 山庄
端綿の縁ふ向ふや吉成場 紫風

布施無賊天社

玉徳をくくろくえさや布施縁 貞南
白藤とまよハ洋まれ布施の妻 惟我

○千葉の蹄 六のそがしハ

星を巻ふや月のめまゆり父堂 文足

肉蹄牧

春風やねくく教と肉中牧 五足

鑑子浦

川や秋の霞あし群子口 素外

○上総

千種の演

峯のどちるやあ種乃貝成し 貞和

矢さしう浦 後場と

月のうきふけとわいり雲 素外

雀寄 大唐海

初まや頬さぬ白き雀山鳥 龜仙

鳴山 毛柄郡東隠見村にまがふ鳴山名とす

鳴山や平ふ冬玉の扱れろ 龜仙

吉船村 日中或る東夷征伐の時強風ありて
吉船と名をいしよしと

跡ふもも負ふは船神の船 貞和

日月山 佐賀にまがふ日月山と名をいしと云

籠をふ風の光るや朔月日 素人

赤人社 玉山郡 田中村

この巻乃雪刀や山雲一郡 平砂

○安房

○師海の巻

小湊より安房の志江迄を日巻と
し与國に外各系ありしを

以秋ゆき海に波のま ぬ竹

各所方角集坤之巻 終

一陽井と人遊名取方角集と

いふ小冊子二巻と編築寸集

ふらふ及と授合はふあつて宛

よしと托とやい通由未読不推

の癖なるらうとも小陸西海乃

二道いふまといふ古城踏すその余の

國くいふとくは抑して邦鄙

山川の河まゝ一疾但温淳と知る
ふんげ菜と載る心とふんげ菜と迷
を以て産物と誤すは向も亦其誤
を以て阿菊多年の志を以てせり
丹津又稱まゝと舂高津富
隨處して可及後小書

安永四年乙未晚夏

東都書林申椒堂

日本橋北室町三丁目

須原屋市兵衛藏板

俳諧明題集 徳信子撰 五冊 片歌 道林のめ 二葉同巻 徳信子撰 二冊

芭蕉桐の一葉 二冊 同草花より道日 一冊

其角雜談集 二冊 同舊宜集日 一冊

桑園集 皇月平抄著 三冊 哥文要語日 一冊

硯乃筏 紀逸輯 二冊 は一書ふり日 一冊

岩手山 桑園白扇著 二冊 寒葉齋畫譜日 五冊

根事草東作著 五冊 水乃ゆく東作著 五冊

志道軒傳右門作 五冊 俳諧不斷高志の句 全

左傳屬事南陽先生校 廿二冊 大明十三省圖 二牧
萬國一器界圖

龍門先生文集二編 三冊 歷代事跡圖大清呂君翰訂正 一牧

大疑錄貝原先生著 二冊 物類品平賀鳩溪著 六冊

經義折衷金我先生著 一冊 十體千字文 一冊

陸賈新語蘭臺先生校 一冊 六體千字文崑陸先生書 一冊

王元美尺牘 一冊 猿橋碑銘諸名家之文筆 一冊

易學辨疑金我先生著 一冊 字畫淵海筆法之書 二冊

大史華句唐本翻刻 三冊 石印集誼彫刻刀法 二冊

拋入苑の園古人生苑乃寫式 三冊 寐惚先生文集 一冊

生苑千筋入江玉膳 五冊 小説土平傳 一冊

古言様魚虎撰 一冊 笑府 一冊

百人一首解栗本氏 一冊 唐明詩鍵 一冊

久乃志海古文の法帖 八冊 大東地名箋 一冊

志乃平料理集 一冊 詩學小成 四冊

民間備荒錄 二冊 必爭法帖松花堂 二冊

信濃地名考吉沢鶴山 三冊 常盤帖同 二冊

七觀音經 全 瘡治茶談津田玄仙著 全

唐摹真本十七帖 全 外科撮要青木組劄子述 二冊

揖取先生社中之画 諸名公諸體贊詩 遊戯画帖全 西遊紀行 二冊

解體新書杉田玄伯著 五冊 四溟陳人詩集 三冊

同 約圖同右 五枚 郊華集 全

名物画譜豐後先生筆 三冊 繪本いろは歌春信筆 三冊

市隱草堂集安文仲 五冊 繪本在時乃時北尾重政筆 三冊

詩學楷梯東里先生輯 四冊 謙諧名所方角集谷素外輯 二冊

歐陽詢千字文戲鴻堂法帖翻刻 一冊 大成年代廣記 一冊

分間江戸圖鑑菊岡沾涼作 一冊 今日歌集望雲樓之狂哥集 一冊

古今句鑑

谷素外撰

四冊 文子

三冊

向風艸

安文仲諸門人之詩集

二冊 四聲韻選

雲閣千葉先生

二冊

幼科種痘方

一冊

瀧本三代帖

三冊

古詩絕句

一冊

翻譯萬國圖

并略說

平賀先生著

一陽井著述目錄

誹諧繪本

世都孔登起

全部三冊

誹諧名所方角集

全部二冊

誹諧古今句鑑

全部四冊

誹諧神釈行事解

近刻

東都書林

西村源六
須原屋市兵衛

